

### 1 自己評価及び外部評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2472100508		
法人名	株式会社SHIN EI		
事業所名	グループホームなでしこの家		
所在地	員弁郡東員町穴太字大谷2578-4		
自己評価作成日	平成31年 1月10日	評価結果市町提出日	令和元年 6月18日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaiyokansaku.mhlw.go.jp/24/index.php?action_kouhyou_detail_2018_022_kani=true&amp;jiyosyoCd=2472100508-00&amp;PrefCd=24&amp;VersionCd=022">http://www.kaiyokansaku.mhlw.go.jp/24/index.php?action_kouhyou_detail_2018_022_kani=true&amp;jiyosyoCd=2472100508-00&amp;PrefCd=24&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	評価認証推進機構株式会社
所在地	三重県四日市市八王子町439番地1
訪問調査日	平成 31年 2月 15日

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「笑顔はみんなの命の薬です」という理念を大切に、家人さん・職員が日々笑顔で過ごせるよう努めています。入居されている利用者さんを身近に感じられるよう「家人さん」と呼ばせていただいております。家人さんが生きてきた道を理解し、入居後も本人らしく過ごして頂けるよう趣味や、やりたい事をできるだけ続けてもらえるようなサポートをご家族さんとともに考えていきます。施設内だけでなく、花を見に出掛けたりと外出の機会を設けたり、同じ事業所が桑名市といなべ市にあり月に2回交流会を設け楽しい時間を過ごして頂けるよう努めています。又、食事会、夏祭り、クリスマス会の年間行事には沢山のご家族様が参加して頂いたり、年に一度の家人さんの誕生日には担当職員が事前に誕生日会を企画しプレゼントを準備、当日には他の家人さんにも協力して頂いたりし大切な一日を皆でお祝いしてい

#### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

天窓から自然光の差し込むユニットをつなぐ長い廊下で、手すりを使い歩行訓練をしている利用者がある。利用者の自立支援に向けて、午前中は塗り絵や脳トレなど様々なレクに取り組んでいる。居室の表札や暖簾は、利用者本人や家族の手作りで自室の目印となっている。また、食堂の椅子カバーは職員の手作りで利用者が自分の席と分かるよう大きな名前のアプリケが付いており、配慮がうかがえる。年末の家族との部屋掃除行事は、職員が手を付けられない部分を家族と一緒に考え行うことで交流の場となり自立支援に繋げている。なでしこの家は、職員が生き生きと明るく働き話し易い雰囲気です。訪問し易いと利用者家族に評判で、特に年4回の家族行事後にアンケートで意見要望等を募り、反映に向けて前向きに取り組んでいる。

### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「笑顔はみんなの命のお薬です」の事業所理念を職員一同大切に、家人さんの意思を尊重し、笑顔で過ごしていただけるようなケアを大切にしている。半年に1回程ミーティングで理念について振り返りをしている。	理念の意味を新人研修時に説明している。また、毎年1月のミーティング時に、全職員が振り返りプリントで共有し理解を深めて、日々理念の意図に基づいたケアができるように取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣に民家が少ない為、地域の方の関わる機会が少ないが、大きな行事には民生委員さんを招いたり、近隣高校の生徒もボランティアに来てもらい交流ができた。定期的にボランティアの方に来て頂き芸を鑑賞し、外部からの交流を図っている。	地域民生委員の行事への招待や近隣高校ボランティアや地域ボランティアとの定期的な交流があり、また運営推進会議で得た地域行事から利用者が参加できる催しを検討し、利用者が地域とつながり続けられるよう取り組んでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	24時間365日スタッフのいる認知症専門の介護事業所であるという利点を活かし、キャラバンメイトの配置や地域の高齢者見守りネットワークに参加している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回運営推進会議を行い、入退所状況や取り組みなどを報告し、参加された方より質問や意見を頂き、サービスの向上ができるようにしている。	民生委員、役場職員、一部の家族の参加で、現状や開催行事の報告をし、参加者から町のイベントの情報を発信してもらいサービス向上に生かしている。家族参加が少ないので、会議の内容を毎月家族に送付し報告している。	参加者が固定化されてきている傾向にあるため、多様な人々に参加して貰う工夫が望まれる。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	併設の居宅介護支援事業所と通所介護をしている事もあり、日々、市町村と関わる機会は多い。夏祭りやクリスマス会には、役場の方や民生委員さんにも参加して頂いている。	併設の居宅介護及び通所介護事業所と共に、日頃から相談や現状の報告をし町との連携を図っている。月1度は介護認定等の書類を役場に直接持参して、係の担当者と連絡を密にしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ミーティング、ケース会議等で身体拘束をしないケアについて、勉強会を行い、スタッフが理解していくように取り組んでいる。	「身体拘束をなくすために」というマニュアルや分かりやすいプリントを作成し、スピーチロック含め定期的に勉強会を開き、振り返りをしている。職員同士で意識し注意しあう取組がある。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会を開催し、当日参加していないスタッフにも資料を配布している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、地域福祉権利擁護事業を活用していない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	事前に面接やホーム見学を行いながら十分な説明を行い、入居予定者や家族が理解していただいた上で契約を行っている。又、解約に関しても入居者や家族に相談し納得した上でやっている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者の意見や不満、苦情の訴え等に日頃から職員が耳を傾け、その都度申し送りやミーティング等で話し合い検討をしている。又、ご家族の方の来所時や行事等に話をしたりしながら、話しやすい環境作りをしており、要望や意見を聞いている。	日頃から利用者や家族の声に耳を傾け、運営に反映できるよう努めている。年4回の家族行事の際の聞き取りで、行事に関わりたくないという家族の要望を受け、準備段階から協力して貰ったりと反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日頃より職員の個々の意見を大切にしていけるよう個別に話を聞いたり、他の職員の意見も共有していけるようミーティングやケース会議等を活用し話し合いを行っている。	リーダーを通し代表に意見を伝える仕組みがある。ミーティング(月2回の内1回は社長参加)は、意見を出し合える会となっている。また管理者は、日頃の会話や申し送り時に職員の意見や提案を聞き、運営に反映させる努力をしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員全員に年1回7月に自己評価を行い、4月に面談をし契約の更新を行っている。又、H23年から奨励賞などを行い、総括からの評価や職員からの評価によって日々のケアのモチベーションを高めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個々にあった研修に参加できる機会を作っている。また、ミーティング等で勉強会を定期的に開催し、職員のステップアップとなるような教育を取り入れている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	年数回、他のホームとの相互訪問や研修を行い、交流する機会を作り、様々な意見を取り入れられる機会を設け、サービス向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	最初に面談等を行い、本人が困っていることや不安なこと等を聞く機会を設け、受け止めていけるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居してから1カ月以内は頻繁に家人さんの様子を伝えていけるよう努め、家族からの要望等も聞いていけるような場を設け、それ以後も家族の方が話しやすい環境を構築していけるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時、本人・家族の方の状況を把握し、今必要とされる支援を考え、ホーム外の社会(地域)資源も活用したサービスを提供できるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	普段の何気ない日常会話の中から、本人の思いや、どのように暮らしたいか等の要望、不安な事はないか等を探り、一人一人の個性を大切にしながら喜怒哀楽を共有し支えあう関係を築くよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の方に本人の生活歴や知る限りの本人の思い等、情報を収集しつつ、家族の意向も踏まえながら本人が住みよい環境が作れるように家族と共に本人を支えていける関係を築けるよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みのある場所・お店に、職員と一緒に外出したりして関係継続に努めている。又、ホームへ来所して下さる知人の方との時間をゆっくりと取っていただけるようにしている。	馴染みのスーパーへの買い物や地域の喫茶店に数人で出かけたり、自宅近く迄ドライブしたり、また、利用者の馴染みの人の訪問を歓迎し、場や人との関係が途切れないよう支援に取り組んでいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	家人さん同士の関係を考慮し座席配置を決めている。又、職員が関係作りの仲立ちとなれるよう働き掛け、レクリエーションも皆で楽しく参加できるよう考え工夫をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所された方には引き続き関係を断ち切らないよう何かあれば支援することを家族の方に伝えている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	家人さんの意思や要望を尊重していけるよう、日頃から家人さんとの関わりを大切にし、耳を傾けていけるよう努めている。日常の会話の中からその方の要望などをくみ取り実行している。	「生活歴事前情報」や、日頃の会話から把握され更新された思いや意向を記録し共有するための「その人を知る」シートで、本人の意向に沿った暮らしのデザインを検討している。お風呂で二人きりの話しやすい雰囲気の中で吐露される本音を大切にしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時に作成する情報書等を参考にし、本人の馴染みの暮らし方の把握に努めている。又、フェイスシート等だけでなく面会時に家族にも話を伺って少しでも多く把握できるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個別日誌等の記録に職員皆が日々の様子(発言や行動)を把握していけるよう記入している。又、転倒・特変・不眠等の家人さんについては口頭で伝えると共にメモを残し、皆が目にする業務日誌に挟むようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	「その人を知る」というシートに現在のADLを記入し、それを基にケース会議で他の職員の意見も聞けるようにしている。	事前に担当職員が更新した「その人を知る」シートを用い、ケース会議で利用者一人ひとりについて、職員全員が意見を出し合いケアプランを作成する。プランに沿った活動ができているか個別日誌で確認し、半年に一度モニタリングしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員が家人さんの個別日誌(介護計画書の項目を反映している)を記入し、申し送り等で共有しながら日々のケアにあたっている。又、4日前までの個別日誌が閲覧しやすいように別にクリアファイルで保管している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族、家人さんの状況の変化や要望に沿えるように、その都度、サービス内容の変更を行っている。又、変化や問題点が見られたら日々の申し送りははじめミーティング等を活用し、より良い方法を考えていけるよう柔軟に対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	劇や音楽等、地域のボランティアの方が定期的に訪問してくれている。昨年は地域の幼稚園児が遊びに来てくれ家人さんと交流を図り、楽しい時間を過ごして頂いている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族の方の希望を大切に、かかりつけ医での受診をするように努めている。受診は、職員も同行している。また、かかりつけ医によっては訪問診察して頂いている。	利用者の従来のかかりつけ医受診の希望を大切に、家族同行の受診が難しい場合には、職員が付き添って行く。歯科や眼科は家族の希望があれば職員が対応している。職員同行の場合は、家族に電話で報告している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	常勤の看護師がおり、体調不良等が見られれば直ぐに連絡をし対応できるようにしている。必要に応じ、受診又往診している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	家人さんが入院した際は3日に一度は面会に伺い状況の把握を努めると共に、主治医や看護師とコミュニケーションを取り病院と連絡しつつ、今後のことを相談している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時、家族と重度化や終末ケア(看取り)について話し合いを行っている。実際に重度化、終末ケアに直面した際は、家族、主治医を含め本人・家族の意向を尊重した今後の方針を話し合い検討している。	入所契約時に家族に終末期ケアの説明をし話し合い方針を統一している。終末期に入ると家族と職員と一緒に医師の話を聞き、本人や家族の意向を尊重しながら、状況変化の都度柔軟に対応している。見取りマニュアルがあり、夜間の看取り研修も行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	ミーティングや勉強会等を開いて緊急時の対応等について話し合いを行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回避難訓練を行いそのうち1回は消防の方を呼び消火訓練を行っている。いざという時に備えて、家人さん、職員共に避難できるよう職員は方法を把握するようにしている。日中、ディサービスや隣の小規模多機能居宅介護(ブーケ)と共に避難訓練を行った。	マニュアルがあり、日中ディサービスや隣の小規模多機能と共に規定の避難訓練を実施し、協力体制ができています。夜間想定訓練は実施したが、課題が残る。水、スポーツドリンク、オムツ、カセットボンベの備蓄がある。	実際に夜間職員一人体制時の避難について、火災、地震、水害の各災害を想定して更に具体的な避難方法を全職員が身に付けられるよう、また検討中の「連絡等のマニュアル」の作成も望まれる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	羞恥心の配慮というマニュアルを作成し、ミーティング等で勉強会を行っている。家人さん一人一人を尊重し接している。又、職員同士で家人さんとの接し方を気に掛け、その都度、指摘している。	「羞恥心やプライバシーの配慮」マニュアルがあり、ミーティングで勉強会を行い、平素から気になることは指摘している。パット確認は居室でドアを閉めて行き、トイレ誘導は小声や筆談で促し、行きたがらない人には「散歩に行きませんか」と声掛けの工夫をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日頃から家人さんとのコミュニケーションを大切にしながら思いや訴えが表現しやすい環境作りに努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	共同生活ではあるも家人さんのその日の様子(体調や表情等)に十分配慮し、その方に適した生活(ペース等)を過ごしていただけるよう日々のケアにあたっている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎朝身だしなみに気をつけ、乱れていれば直している。又、月1回美容院の方が訪問して下さり、家人さんの希望に則した髪型にしている。又、お誕生日や夏祭り等では職員でお化粧をさせていただいている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	月1回のケーキの日や、第2第4週金曜日は職員と一緒に食べるランチの日を設けている。又、盛り付けを頼んだり、日頃から下膳・配膳をして頂けるよう働きかけている。	月2回の「ニコニコランチ」では、利用者に食べたい物や作りたい物のアンケートを取り、職員と一緒に食材の買出しに行き、一緒に食事をしている。嫌いな物にも臨機応変に対処している。月に一度のケーキの日は利用者に好評である。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食時、食事量のチェック・水分量のチェックを行っている。特に食事量や水分量を気に掛けている。かなければならない家人さんに関しては、別紙を作り職員がより意識していけるようにしている。又、遅番が食事量を把握している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアをきちんと促し、口腔内の清潔を保てるようにしている。介助が必要な家人さんについては、職員が見守り付き添って介助等にあたっている。又、口の周りの汚れにも十分気を配り、温かいおしぼりで拭いていただいている。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレ誘導が必要な家人さんにはトイレチェック表を基に羞恥心に配慮しながら声掛けを行い、決まった時間ではなく、その方に応じた排泄パターンで誘導し自然排泄が出来るよう支援をしている。	トイレ誘導については、排せつチェックシートを用い、その人のパターンで声掛け誘導している。おなかの張り具合をチェックし、センナ茶等、下剤に依らない方法で支援している。オムツ使用者は居室で交換をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	各々の家人さんによって漢方のセンナ茶を調整し飲用していただいたり、主治医と相談しながら内服調整も行い、排便コントロールしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	2～4日に1回のペースで入浴していただいている。各々の家人さんの要望を聞き、入浴のない日には足浴をしたり、希望に添える支援を行っている。	週3～4回の入浴で、跨げない人は、シャワーキャリーや時に希望に応じて職員2人介助で湯船に浸かって貰っている。嫌がる人には、仲の良い人に誘って貰い2浴槽で同時に入って貰ったり入浴剤等で工夫している。入浴のない日は足浴、ドライシャンプー、清拭など希望や状態に応じて対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	家人さんの各々の状況(夜間不眠・下肢の浮腫・体調不良等)に考慮しながら休息していただけるよう心掛けている。又、家人さんが「休みたい」と希望された際も休息していただくようにしている。休息時は居室環境に気をつけている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬介助は担当職員が行っている。服薬の変更や重要な薬等については受診ファイルに記載し申し送っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	できる限り家人さんが主役になって、食器洗い、廊下・ホールの掃き掃除などの個々で生きがいや役割を見出せるように努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	中庭の散歩を日課に取り入れたり、外出表という別紙を参考に各々の家人さんがいつ外出したか分かる為、それを参考に外出支援を行っている。	外気に触れるよう、中庭や畑の散歩を日課としている。職員が車で週に1度2名ずつ交代で買い物や公園散歩等の支援をし、「お出かけ記録表」で外出先や利用者が偏らないよう工夫している。季節の収穫を楽しんで貰う為、苺狩りや芋掘等を支援している。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個人のお小遣いに関しては事務所の個人BOX預かりとなっている。買い物の際に家人さんに支払っていただいたり、家人さんから希望があれば個人BOXからお出して一緒に買い物に行ったり柔軟に対応している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家人さんが希望された際、電話をつなげたり、職員から家族の方に連絡したりすることもある。又、家人さん宛ての手紙や年賀状は直接家人さんにお渡ししている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	廊下の天窓から日差しが差し込んだり、ホールの窓も大きい為、外の風景が見やすいようになっており季節感が感じられる。又、季節に応じて適した温度や湿度で過ごしていただけるよう加湿器や冷暖房器具をきちんと使用している。	ホールの窓は大きく、眼前の竹藪や畑に季節の移ろいを感じられ開放感があり、眩しすぎない明るさを保っている。ユニット間の長い廊下は行き来が自由で、手すりを利用して歩行訓練をし足腰の状態維持に役立っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下の端にイスを設置しており、家人さん同士でお話しゆっくり過ごせる環境作りをしている。又、居室で休んでいただくこともできるよう働き掛けている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家人さんの使い慣れた物や思い出の品、大切な物(写真やお仏壇等)の持ち込みが可能であり、設置も家人さんにとって使いやすい場所に設置していただけるよう意向に沿った環境を作るようにしている。	壁に利用者のお気に入りの写真を貼り、気分を和ませている。自宅で使い慣れたソファや筆筒、仏壇から、備え付けのベッドも本人の意向通りに設置している。各部屋扉に利用者自身の写真を貼り、自室を認識し易いよう工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	家人さんが安心かつ安全に過ごせるよう、居室空間は手すりの設置やベッドの位置・高さ等を家人さん各々の状況に合わせて考え、タンスにも何処に何が入っているか分かるよう記入をし自立した生活が送れる環境を大切にしている。		